

連結財務諸表（要約版）

連結貸借対照表

(単位：百万円)		
	前連結会計年度 2022年3月31日現在	当連結会計年度 2023年3月31日現在
資産の部		
流動資産	86,008	81,413
固定資産	33,955	44,848
有形固定資産	21,077	23,081
無形固定資産	307	205
投資その他の資産	12,570	21,562
資産合計	119,964	126,262
負債の部		
流動負債	9,267	9,805
固定負債	4,357	4,713
負債合計	13,625	14,518
純資産の部		
株主資本	98,624	101,951
その他の包括利益累計額	6,861	8,812
非支配株主持分	852	980
純資産合計	106,338	111,743
負債純資産合計	119,964	126,262

(注)記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しています。

連結損益計算書

(単位：百万円)		
	前連結会計年度 自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日	当連結会計年度 自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日
売上高	52,658	55,698
売上原価	34,556	39,401
売上総利益	18,101	16,297
販売費及び一般管理費	7,419	7,841
営業利益	10,682	8,455
営業外収益	748	834
営業外費用	91	19
経常利益	11,340	9,270
特別利益	17	38
特別損失	203	—
税金等調整前当期純利益	11,153	9,308
法人税、住民税及び事業税	3,018	2,613
法人税等調整額	308	205
当期純利益	7,826	6,489
非支配株主に帰属する当期純利益	117	104
親会社株主に帰属する当期純利益	7,708	6,385

(注)記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しています。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)		
	前連結会計年度 自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日	当連結会計年度 自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,302	5,597
投資活動によるキャッシュ・フロー	7,058	△1,915
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,478	△3,093
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,144	804
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	14,026	1,392
現金及び現金同等物の期首残高	40,877	54,904
現金及び現金同等物の期末残高	54,904	56,296

(注)記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しています。

連結株主資本等変動計算書 (当連結会計年度 自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

	株主資本				その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計	
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額			その他の包括利益累計額合計
当連結会計年度期首残高	7,095	7,964	85,606	△ 2,040	98,624	4,712	2,167	△ 18	6,861	852	106,338
会計方針の変更による累積的影響額	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
会計方針の変更を反映した当期首残高	7,095	7,964	85,606	△ 2,040	98,624	4,712	2,167	△ 18	6,861	852	106,338
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当	—	—	△ 3,057	—	△ 3,057	—	—	—	—	—	△ 3,057
親会社株主に帰属する当期純利益	—	—	6,385	—	6,385	—	—	—	—	—	6,385
自己株式の取得	—	—	—	△ 1	△ 1	—	—	—	—	—	△ 1
自己株式の処分	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	394	1,522	34	1,950	127	2,077
連結会計年度中の変動額合計	—	—	3,327	△ 1	3,326	394	1,522	34	1,950	127	5,404
当連結会計年度期末残高	7,095	7,964	88,933	△ 2,041	101,951	5,107	3,689	15	8,812	980	111,743

(注)記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しています。

会社 / 投資家情報

会社概要

● 商号	アリアケジャパン株式会社 (ARIAKE JAPAN Co., Ltd.)	● 取引銀行	株式会社三井住友銀行 株式会社三菱UFJ銀行 株式会社十八親和銀行	● 所在地	● 本社 〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南 三丁目2番17号 電話 03-3791-3301(代表)
● 代表者	代表取締役社長 白川 直樹 代表取締役副社長 岩城 勝利	● 関連会社	● 青島有明食品有限公司 ● 日照有明食品有限公司 ● 台湾有明食品股份有限公司 ● F.P.Natural Ingredients S.A.S. ● Ariake Europe N.V. ● Henningsen Nederland B.V. ● PT. Ariake Europe Indonesia ● 株式会社イー・シー・シー ● アリアケファーム株式会社	● 九州工場 ● 第1工場 ● 第2工場 ● 中央研究所R&Dセンター ● パップセンター ● 名古屋支店 ● 大阪支店 ● 福岡支店 ● 仙台支店 ● 札幌営業所	
● 創業	1966年6月2日	● 資本金	7,095,096千円	● 従業員数	648名(2023年3月31日現在)
● 事業内容	1 天然調味料の製造、加工及び販売 2 農畜産物の生産、加工、輸出入及び販売 3 水産物の加工、輸出入及び販売 4 医薬部外品の製造、輸出入及び販売 5 飲食店の経営 6 前各号に関連する技術指導業務 7 前各号に附帯する一切の事業				

株式の状況

(2023年3月31日現在)	
● 発行可能株式総数	130,000,000株
● 発行済株式の総数	32,808,683株
● 株主数	8,148名
● 上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場
● 証券コード番号	2815

大株主(上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
ジャパンフードビジネス株式会社	10,618	33.34
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,261	10.24
公益財団法人岡田甲子男記念奨学財団	2,196	6.90
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	1,760	5.53
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,647	5.17
株式会社王将フードサービス	784	2.46
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	617	1.94
BBH FOR UMB BK, NATL ASSOCIATION-GLOBAL ALPHA INTL SMALL CAP FUND LP	523	1.64
JP MORGAN CHASE BANK 385632	475	1.49
株式会社かんぽ生命保険	420	1.32

*1.当社は自己株式を959千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
*2.持株比率は自己株式を控除して計算しております。
*3.持株数は、千株未満を切捨てて表示しております。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当基準日	3月31日
第2四半期配当基準日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	東京都府中市日町町1-1 電話：0120-232-711(通話料無料) 郵送先：〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

上場証券取引所 東京証券取引所 プライム市場
公告方法 公告URL <https://www.ariakejapan.com/>



第45期 事業報告

2022年4月1日 >>> 2023年3月31日

IR Report

自然がおいしい。

<https://www.ariakejapan.com/>



証券コード番号：2815

株主の皆様へ

アフターコロナの需要回復とともに、独自のビジネスモデルの強みを発揮し、着実に売上を積み上げ、新カテゴリーや自社ブランドの強化などで、さらなる成長へ。

着実に売上を積み上げ

第45期連結累計期間(2022年4月1日～2023年3月31日)において、原材料及び光熱費の高騰の影響を受ける状況下でも、当社グループはグローバルエンタープライズとして、また、天然調味料におけるリーディングカンパニーとして顧客ニーズを先取りし、全世界の既存事業の拡充と、新規事業の積極的な展開を図りつつ、「食の安全」「健康」「おいしさ」を追求してきました。独自のビジネスモデルの強みを発揮し、着実に売上を積み上げました。

独自のビジネスモデルの強み

当社グループの強みは、畜産系天然調味料市場を早期に開拓して構築した独自のビジネスモデルにあります。

高度な生産能力・技術力:原料から最終製品までの一貫生産体制を確立、さらに、早くからコンピュータ生産方式を導入し、大規模工場における大量生産・安定供給体制を構築しています。

高度な品質・衛生管理能力:自動化・コンピュータ制御された工場で、食の安全・安心を確保しています。品質マネジメントのISO9001認証、環境マネジメントのISO14001認証、高度な食品安全マネジメントシステムFSSC22000認証、農業生産工程管理の国際認証Global GAP(アリアケファームで取得)を取得しています。

世界7種のグローバルな生産体制:7つの生産拠点で世界最適地生産体制を構築し、原料を効率的に調達し、国内外で生産・販売しています。これらの強みのシナジーにより、国内外で、外食・中食・加工食品産業などに幅広く強固な顧客基盤を形成し、高品質・安全・安心な約2,500種類にも及び天然調味料(自社製品)を、2万社以上に供給しています。

連結売上高1,000億円を目標

強みを活かして、2031年3月期に連結売上高1,000億円達成を目標としています。内訳は、国内、海外、それぞれ500億円です。

新カテゴリー(大豆や野菜ベースの新製品)、自社ブランドの強化

国内では新カテゴリーに注力しています。具体的には、従来の畜産原料ではなく、新たにプラント(大豆や野菜)を原料とした新製品群や、自社ブランドも強化したB2Cの新製品群を展開します。

海外展開を一層積極化し、特に自社ブランドの強化に注力しています。

ベルギー工場では、家庭用スープ向けのストレートタイプのパイオンの製造設備を増設しました。フランス市場で自社ブランドの浸透を図ります。フランス工場では、粉末調味料製造用のスプレードライヤー設備が完成しました。これは加工用として拡張する計画です。

中国では、日照市で新工場を計画中です。少子化が進展し、労務費も上昇しており、先進的な自動化工場とします。併せて青島工場でも生産能力増強中です。中国でも自社ブランドの家庭用製品を拡大します。

また、米国への再進出も計画しており、工場候補地を選定しました。米国でもB2C製品に注力する予定です。

事業の発展とともにサステナビリティに貢献

当社グループは、食肉加工の後に残る骨(ガラ)を原料にエキスを抽出することで創業し、残渣の有効活用、廃熱や廃油などの再利用にも取り組んでおり、事業の発展の追求とともに、サステナビリティに貢献しています。2021年4月から国内生産工場の全電力を再生可能エネルギーに代替開始するなど、貢献を一層強化しています。

当社グループは、連結売上高目標とともに、今後も、持続的な事業基盤の構築、イノベーションの追求に努めていきます。

株主の皆様に対しては、日頃のご支援ご鞭撻に感謝するとともに、今後のさらなるご愛顧を祈念して、1株当たりの期末配当金は82円といたしました。この結果、年間配当金は中間配当金と合わせて、102円とさせていただきます。

株主の皆様には、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。



特別相談役
岡田 甲子男

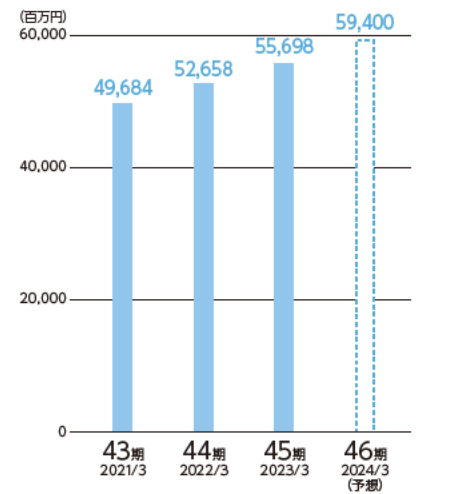


代表取締役社長
白川 直樹

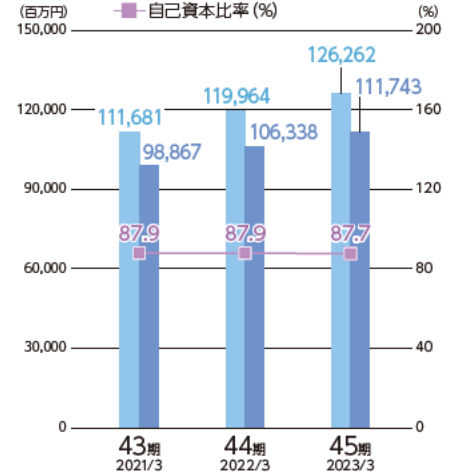
営業の概況（連結）

連結決算のポイント | 増収ながらも、原材料及び光熱費の高騰に伴い、減益となりました。

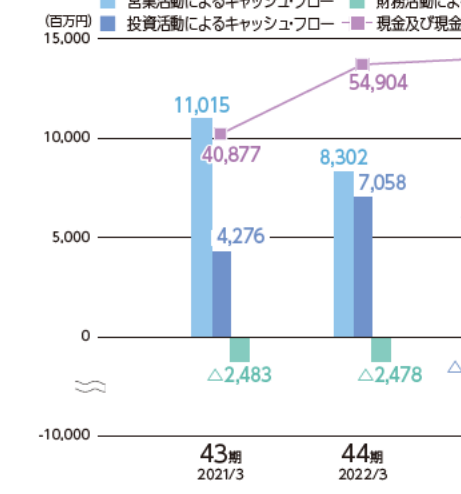
売上高



総資産／純資産／自己資本比率

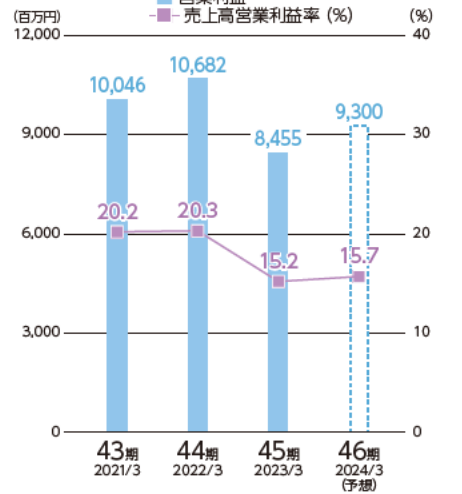


キャッシュ・フロー

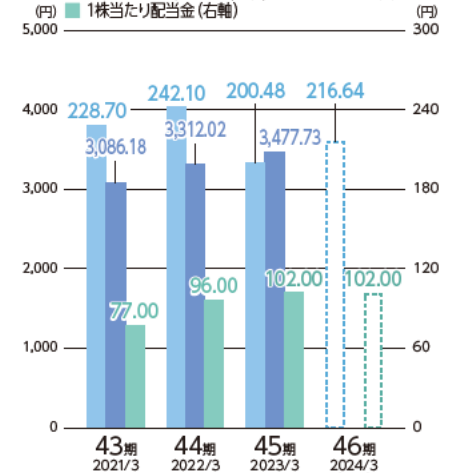


ホームページでもさまざまな情報をご覧いただけます。
<https://www.ariakejapan.com/> または でご検索ください。

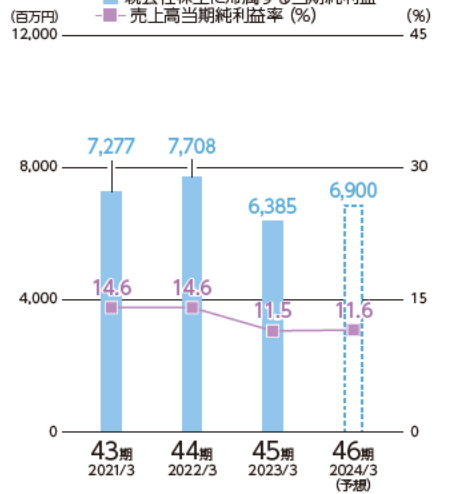
営業利益／売上高営業利益率



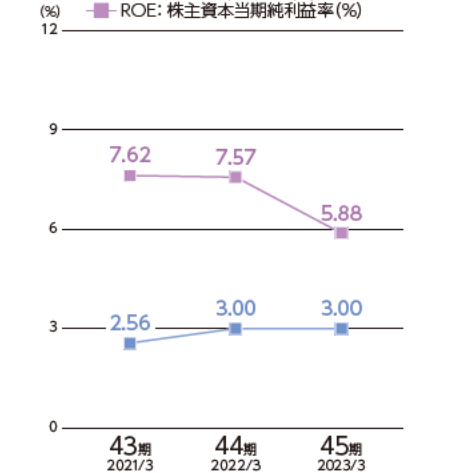
1株当たり当期純利益／1株当たり純資産／1株当たり配当金



親会社株主に帰属する当期純利益／売上高当期純利益率



DOE／ROE



特集 当社グループのグローバルネットワークと事業戦略

「世界最適地生産体制」を確立し、世界中の多くの顧客ニーズに対応しています。

当社グループは世界の食文化の発展に寄与するために、創業以来、グローバルエンタープライズとして、日本国内はもとより、世界的な規模で企業活動を展開してきました。創業以来、世界各国で200億円強の大型設備投資を行い、今般その投資が一巡し、既に回収期にはいっております。現在、日本、中国、台湾、フランス、ベルギー、オランダ、インドネシアの世界7箇所の生産拠点を有する「世界最適地生産体制」の下、世界中の多くの顧客のあらゆるニーズに対応しています。



- 1 日本 Japan**
 会社名 アリアケジャパン株式会社
 本社所在地 東京都渋谷区長崎県北松涛部
 工場所在地 1966年6月
 資本金 7,095百万円
- 2 中国 China**
 会社名 青島有明食品有限公司
 所在地 中国 山東省 青島黄島区
 設立 1994年12月
 資本金 8,120千ドル
- 3 台湾 Taiwan**
 会社名 台湾有明食品股份有限公司
 所在地 台湾 屏東市
 設立 1985年5月
 資本金 250,000千NTドル
- 4 フランス France**
 会社名 F. P. Natural Ingredients S.A.S.
 所在地 フランス アランソン市
 設立 2003年3月
 資本金 22,000千ユーロ
- 5 ベルギー Belgium**
 会社名 Ariake Europe N.V.
 所在地 ベルギー マースメヒレン市
 設立 2004年1月
 資本金 43,000千ユーロ
- 6 オランダ Netherlands**
 会社名 Henningsen Nederland B.V.
 所在地 オランダ ワールウエイク市
 設立 1984年12月
 資本金 359千ユーロ
- 7 インドネシア Indonesia**
 会社名 PT. Ariake Europe Indonesia
 所在地 インドネシア 西ジャワ州
 設立 2016年3月
 資本金 3,725千ドル

当社グループの事業計画

高品質、安価な商品を安定的に供給できる「世界最適地生産体制」の確立により、当社グループでは、明確な数値目標を示した事業計画を策定しました。

当社グループの事業戦略

当社グループでは、事業計画に基づき、世界の各地域・国ごとに具体的な事業戦略を策定し、3年後の2026年3月期の売上高目標値を掲げました。

	実績		計画			
	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	
売上高	単体	401	427	440	450	460
	連結子会社	158	169	194	220	261
	連結調整	△ 32	△ 39	△ 40	△ 41	△ 42
営業利益	単体	76	57	66	74	83
	連結子会社	31	27	27	36	48
	連結	107	84	93	110	131

計画			2026年3月期* 売上高目標値
日本	アリアケジャパン株式会社	新たな製品開発と市場開拓によるさらなるシェア・アップ	460
アジア	青島有明食品有限公司(中国)	中国: 具材入り完成品の販売強化	261
	台湾有明食品股份有限公司(台湾)	台湾: 加工メーカー向け販売強化	
	PT. Ariake Europe Indonesia(インドネシア)	インドネシア: 日本への原料供給と同国市場の販売強化	
欧州	F. P. Natural Ingredients S.A.S.(フランス)	設備投資を活かした家庭用パイオン、パウダー類の投入による売上拡大	261
	Ariake Europe N.V.(ベルギー)		
	Henningsen Nederland B.V.(オランダ)		
その他			

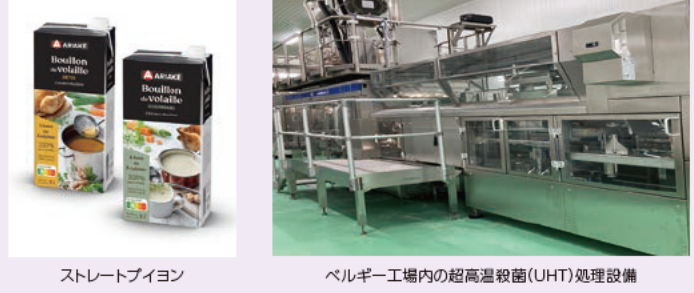
*売上高目標値は連結調整前のものです。

トピック

欧州で新たな設備が完成、一貫生産体制の強みを活かした浸透を図る

海外売上500億円を目標
 2031年3月期の連結売上高目標1,000億円のうち、500億円は海外で獲得することを計画しています。この目標達成に向けて、一貫生産の強みを活かした成長戦略を強化しています。特に、欧州での当社ブランドの確立に向けて、ベルギーとフランスで生産能力増強に取り組み、いずれもこの2023年1月に、新たな設備が完成しました。
ベルギーでフランス家庭用向けパイオン生産設備完成
 ベルギー工場内に25億円を投じ、ストレートタイプのパイオンの新たな生産設備が2023年1月に完成しました。EU圏では、ストレートのパイオンを抽出段階から製造できる点で、当社グループが高い競争力を誇ります。この強みを活かして、抽出から超高温殺菌(UHT)処理をし、最

終製品まで一貫して生産する設備を構築しました。この設備により、100%天然の高品質のUHTストレートチキンパイオンを製造し、フランス国内で家庭用を中心に販売します。フランスでは250億円の市場規模が見込めることから、自社ブランドで大手スーパーへの納入を計画しています。チキンパイオンはフランスでは料理のベースとして幅広く使用されており、2031年3月期に約100億円の売上を目指しています。



フランスで粉末調味料生産設備完成

フランス工場では、8億円を投じた粉末調味料生産用のスプレードライヤー設備が2023年1月に完成しました。欧州ではストック調味料は液体よりも粉末が主流であり、ストックを乾燥するスプレードライヤーを設



備することで、抽出から乾燥まで一貫して生産することが可能となり、より優位性が高まりました。ストックパウダー、ミートパウダーなどを乾燥させて、加工用として販売します。ブレンドパウダーも含めて、2031年3月期に約40億円の売上を目指しています。

